

議会運営委員会 視察研修報告

(期間) 1月30日～31日
(目的地及び視察地)
○議会改革の取り組みについて(熊本県熊本市)
○議会活性化特別委員会の設置と議会基本条例について

の考え方について意見交換を行いその中で4つの小委員会を設置し8項目について審査議論を展開している。講師を招いた勉強会、先進地の視察、

研修会の実施等を重ね平成25年3月までに結論を出す予定とのことであった。

(熊本県合志市)

まず、熊本市議会では議会活性化検討委員会を設置。①費用弁償 ②政務調査費の用途基準並びに領収書の添付 ③予算・決算の審査方法 ④議会だより等について説明を受けその中で予算・決算の審査方法について、議案一体の原則に従い、予算・決算委員会を設置しているとのことであり、議会活性化特別委員会を設置し議会改革に取り組んでいるとの説明があった。

合志市議会においては、議会活性化特別委員会の設置と議会基本条例



▲熊本市での行政視察

議会広報編集特別委員会 視察研修報告

(期間) 1月17日～18日
(目的地及び視察地)
○昭和の町づくりについて(大分県豊後高田市)
○議会広報について(大分県大分市)

昭和の歴史再生③昭和の商品再生④昭和の商人再生で平成15年には20万人、平成22年では33万人を数える。

次に大分市では平成20年、市民との意見交換会で市議だよりの記載方法

等について要望が出され、市議会だより編集委員会で検討、さらに平成21年度は外部から専門家を交えて見直しに着手。現在、議員と事務局で作成している。

豊後高田市は昭和30年代以降、人口が減り続け中心市街地は「犬猫通り」と言われるほど衰退した。平成4年、中心市街地の起死回生をかけた大手代理店に依頼し再生プラン「豊後高田市商業活性化構想」をつくった。文化、スポーツセンターを建設し、周囲に新たな商業集積を造るも、巨額の子算の目途がたはず断念。失敗を教訓に、商業者、商工会議所、行政の三者で議論を重ね昭和30年代の商店街が最も賑やかな町の再生で「昭和の町」にたどり着く、昭和の町商店街の4つのキーワードは①昭和の再生②



▲大分県豊後高田市での研修